

ヘパリンカルシウム皮下注 5 千単位/0.2mL シリンジ「モチダ」

【この薬は？】

販売名	ヘパリンカルシウム皮下注 5 千単位/0.2mL シリンジ「モチダ」 Heparin Calcium 5,000units/0.2mL Syringe for S.C.Injection MOCHIDA
一般名	ヘパリンカルシウム heparin calcium
含有量	1 シリンジ (0.2mL) 中、ヘパリンカルシウム 5,000 単位

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、「医薬品医療機器情報提供ホームページ」
<http://www.info.pmda.go.jp/> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、血液凝固阻止剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、血液を固まらせる働きを抑え、血液が固まりやすくなっている状態を改善し、血管内で血液が固まって生じる疾患（血栓塞栓症）を治療または予防します。
- ・次の目的で処方されます。

汎発性血管内血液凝固症候群の治療

血栓塞栓症（静脈血栓症、心筋梗塞症、肺塞栓症、脳塞栓症、四肢動脈血栓塞栓症、手術中・術後の血栓塞栓症等）の治療及び予防

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、原則として、この薬を使用することはできません。

- ・出血している人
- ・出血する可能性のある人
- ・肝臓に重篤な障害のある人
- ・腎臓に重篤な障害のある人
- ・中枢神経系の手術または外傷後日の浅い人
- ・過去にヘパリンカルシウム皮下注シリンジ「モチダ」に含まれる成分で過敏な反応を経験したことのある人
- ・過去にヘパリン起因性血小板減少症（HIT）※を経験したことのある人

※ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）：

呼吸困難、意識障害、けいれん、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができるなどの症状。

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【自己注射する場合】

- ・この薬の使用法や使用済みの注射器と注射針の安全な廃棄方法など、次のことについて十分に理解できるまで説明を受けてください。
 - ・患者さん自身または家族の方が注射をした時に副作用と思われる症状があらわれた場合や、注射を続けられないと感じた場合には、使用を中止し、直ちに医師または薬剤師に相談すること。
 - ・使用済みの注射針あるいは注射器を再使用しないこと。
 - ・すべての使用済み器具の安全な廃棄方法について説明を受けること。
 - ・自己注射を行う前に、この薬の「在宅自己注射説明書」を必ず読むこと。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

[自己注射する場合]

●使用量および回数

使用量、使用回数は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

●どのように使用するか？

- ・使用方法については、末尾の「【別紙】使用方法について」を参照してください。
- ・開封後の使用は一回限りとしてください。
- ・残液や使用済みの針および注射器は、再使用せず、廃棄用専用容器（ない場合はビンや缶などの固い容器）に入れて、子供の手の届かないところに保管してください。

●使用し忘れた場合の対応

決して2回分を一度に注射しないでください。注射を忘れた場合は、医師に連絡して指示を受けてください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

[医療機関で使用される場合]

使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・ この薬を使用する場合は、血液検査などが行われます。
- ・ この薬は、急に使用を中止した場合に、血栓があらわれることがあります。この薬の使用を中止する場合は、時間をかけて、少しずつ量を減らしていきます。医師の指示どおりに使用してください。
- ・ この薬の使用によりヘパリン起因性血小板減少症（HIT）がおこることがあるため、血液検査で血小板数などの確認が行われます。また、**副作用は？**に書かれているような血小板数の著しい減少や血栓症を疑わせる症状（呼吸困難、意識障害、けいれん、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができるなど）があらわれた場合には使用を中止し、医師または薬剤師に相談してください。使用終了の数週間後にHITがおこったという報告もあるため、使用終了後も上記の症状に気をつけてください。
- ・ 歯の治療を受ける場合、他の医師を受診する場合や薬局などで他の薬を購入

する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック ショック	冷や汗、めまい、意識がうすれる、考えがまとまらない、血の気が引く、判断力の低下、息切れ
アナフィラキシー様症状 アナフィラキシーようしょうじょう	からだがだるい、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸、じんましん、判断力の低下
出血 しゅっけつ	意識障害、頭痛、しゃべりにくい、吐き気、嘔吐（おうと）、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、半身不随、血を吐く、腹痛、血が混ざった便、黒色便、血の混じった痰、血圧低下、手術部位からの出血、注射部位からの出血
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい
H I T等に伴う血小板減少・血栓症 えいちあいていーとうにともなうけっしょうばんげんしょう・けっせんしょう	呼吸困難、意識障害、けいれん、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができてきた

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷や汗、からだがだるい、ふらつき、片側のまひ、けいれん
頭部	めまい、意識がうすれる、考えがまとまらない、意識の低下、意識障害、頭痛
顔面	血の気が引く、ほてり、鼻血
眼	眼と口唇のまわりのはれ
口や喉	しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、しゃべりにくい、吐き気、嘔吐（おうと）、血を吐く、血の混じった痰、歯ぐきの出血

部位	自覚症状
胸部	息切れ、息苦しい、動悸、吐き気、呼吸困難
腹部	吐き気、腹痛
手・足	手足のまひ、しびれ、半身不随、片側のまひ、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化
皮膚	じんましん、あおあざができる、皮下出血、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができてきた
便	血が混ざった便、黒色便
その他	判断力の低下、意識障害、血圧低下、手術部位からの出血、注射部位からの出血、出血が止まりにくい、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができてきた

【この薬の形は？】

性状	無色～淡黄色澄明の水性注射液
形状	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ヘパリンカルシウム
添加物	グルコン酸カルシウム水和物、トロメタモール、塩酸、水酸化ナトリウム

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・光と湿気をさけて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かない所に保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：持田製薬株式会社 (<http://www.mochida.co.jp/>)

くすり相談窓口

電話：0120-189-722

受付時間：9:00～17:40

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）

【別紙】使用方法について

【自己注射を始める前に】

このお薬の自己注射を始めるにあたっては、必ず担当医、看護師または助産師からお薬について十分な説明と指導を受けて、注射の方法と手順をしっかりと身につけてください。自信を持って自己注射が行えるようになるまでは、必ず医療機関で注射してもらうようにしてください。

注 自己注射を実施するにあたっての留意事項

在宅自己注射を始める前には、入院又は週2回以上の外来、往診若しくは訪問診療により、担当医などから教育を受ける期間を十分に取し、納得のいく指導を受けてから開始してください。ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）を予防するため、投与開始2週間以内は複数回、2週間以降は1～2ヵ月毎に検査を受けてください。

● 自己注射日誌について

毎回の注射について、注射の実施の有無、副作用およびその他気付いたことなどを自己注射日誌に記入し、次の受診日に担当医にご提示ください。

● 自己注射に必要な資材

1回の投与に必要な資材を用意します。
清潔な場所に器具をあらかじめ並べて置きます。

■ ヘパリンカルシウム皮下注5千単位 /0.2mL シリンジ「モチダ」

包装が破損したり、薬液が漏れているものは使用しないでください。



■ 注射針

針の種類（針の長さや太さ）は患者さんの体格や注射する部位によって異なりますので、担当医の指示に従ってください。

使用直前まで包装を開封しないでください。

注 注射針は注射器には含まれておりませんので、別に処方してもらう必要があります。



■ 消毒用アルコール綿



■ 廃棄用容器



廃棄用専用容器がない場合はビンや缶などの固い容器（例えばインスタントコーヒーのガラス瓶）などでも代用できます。

■ 自己注射日誌



【注射の準備】

1 両手を石鹸で洗います

注射に必要なものを準備したら、両手を石鹸でよく洗います。
指と指の間、指先と爪の間もよく洗ってください。

2 注射針の包装を開封します

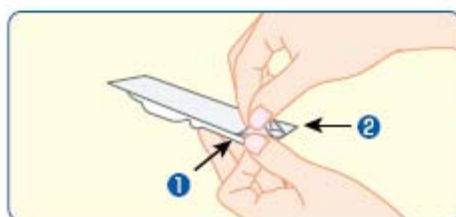
包装のシールを剥がしたのち、注射針を取りださずにそのまま置いておきます。



3 注射器の包装を開封します

2つの“開封口”（下図①、②）から側面全体（下図③）を開封し、シールをゆっくり全部剥がします。

注 包装は使用直前に開封してください。
注射器や注射針はいったん包装を開封したら、速やかに使用してください。



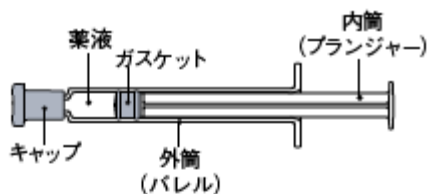
4 注射器を取り出します

注射器を取り出し、使用期限と薬液を確認してください。



注 内筒を持って無理に引き出さないでください。
（ガスケットが変形して薬液が漏出するおそれがあります。）

正常な薬液は無色～淡黄色澄明です。
注射器内の薬液に異物が混入していないか、変色やにごりがないか確認してください。



注 注射器に破損等の異常が認められる場合は、使用しないでください。

使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
使用期限は注射器に年月で記載されています。
記載された月の末日が使用期限です。

5 気泡を上部に集めます

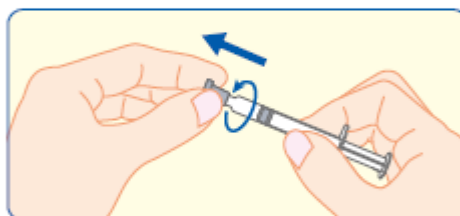
キャップ部を上にし、注射器本体を指ではじくなどの操作により、気泡を上部に集めます。
(キャップを外したときの薬液の多量の漏出を防ぎます。)



6 ゴムキャップを外します

注射器先端のゴムキャップをゆっくり回転させながら外します。

注 キャップを外した後、注射器の先端に触れないでください。



7 注射器に注射針を接続します

注射器に注射針をしっかり接続した後、注射針のキャップを外します。

注 注射針の接続にあたり、誤刺に注意し、しっかりと固定してください。
注射針はキャップを外した後、手や他の物に触れないようにしてください。

注射器内の空気を除去後、目盛りを担当医から指示された用量に合わせて使用します。

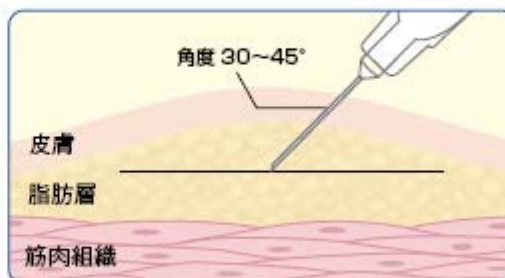
注 注射器内の空気を除去する際は、針を上にして外筒をしっかり持ち、内筒をゆっくりと空気が押し出されるまで押してください。これらの操作では、外筒を持ち、内筒は回さないでください。(内筒が抜けるおそれがあります。) また、もとのガスケットの位置より内筒を引かないでください。
0.1の目盛りは 2,500 単位、0.2 の目盛りは 5,000 単位となります。



【注射の手順】

● 皮下注射とは

皮下注射とは、皮膚と筋肉組織の間にある脂肪層に行う注射のことをいいます。



● 注射部位

皮下注射に適している部位は、大腿部（太もも）、腹部などです。ご家族の方に注射してもらう場合には大腿部、腹部の他、上腕部、臀部などにも注射できます。いつも同じ部位に注射せず、担当医の指示にしたがってその都度注射部位を変えてください。

注 患者様またはご家族の方ともに、注射をする前には十分な教育を医療機関から受けてください。詳しい注射部位は、担当医の指示にしたがってください。



● 注射の方法

1 注射部位をアルコール消毒する

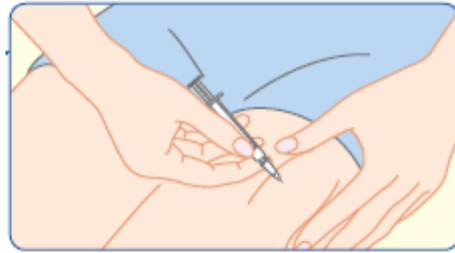
注射部位をアルコール消毒し、消毒した注射部位を十分に乾燥させます。



2 針を刺す

準備した注射器を片手で持ち、もう片方の手で注射部位を軽くつまみ、つまみあげた皮膚の真ん中に少し斜めに針を刺してください。

- **注** 見えている血管は避けて注射してください。へそ、ウエストライン及び太ももの内側への注射は避けてください。

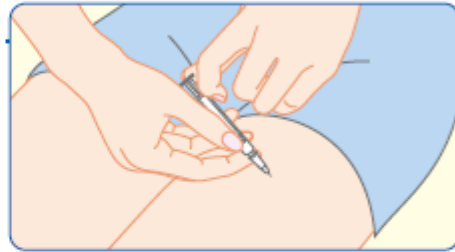


注射針を刺した時に激痛を感じたり、血液が逆流した場合、すぐに針を抜き、部位を変えて注射してください。

3 注射液を注入する

注射器の内筒を静かに押して、薬液を注入し、数秒程度待ちます。

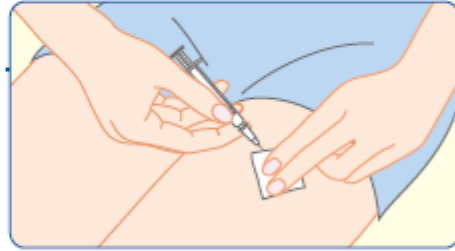
- **注** 陰圧をかけて（内筒をわずかに引いて）、血液の逆流が見られないことを確認してから薬液を注入してください。注射している時に、激痛を感じたり、血液が逆流した場合、すぐに針を抜き、部位を変えて注射してください。



4 針を抜いて、注射部位を消毒する

注入し終わったら、注射針を引き抜きます。注射した場所を新しい消毒用アルコール綿で軽く押さえます。

- **注** 注射部位が後から痛くなったり、赤くなったり、硬くなったりした場合は、担当医に連絡してください。いつも同じところに注射せずに、担当医の指示通り、その都度注射部位を変えてください。



注射した後で、注射した場所を揉まないようにしてください。

5 注射器および注射針の廃棄

使い終わった注射器と注射針は、医療機関の指示にしたがって、廃棄用容器等に廃棄してください。
全て終了したら、もう一度両手をよく洗います。

- **注** 一度使った注射器と注射針は、絶対に再使用しないでください。

6 自己注射日誌の記載

自己注射を行ったら、自己注射日誌に記載しましょう。